

経営比較分析表（令和6年度決算）

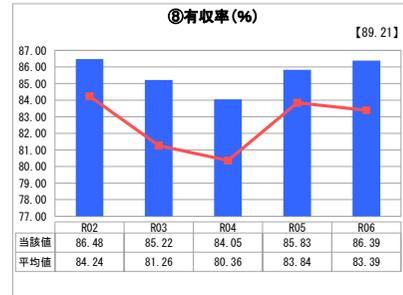
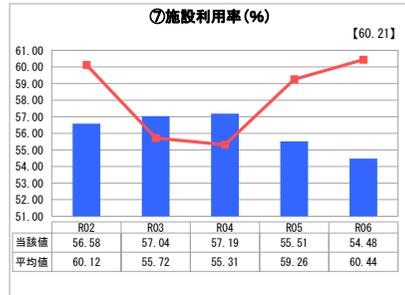
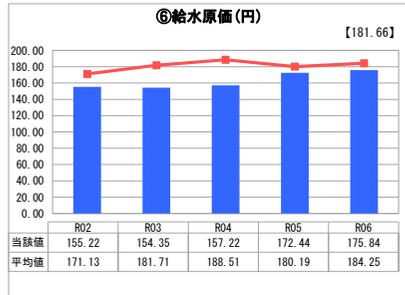
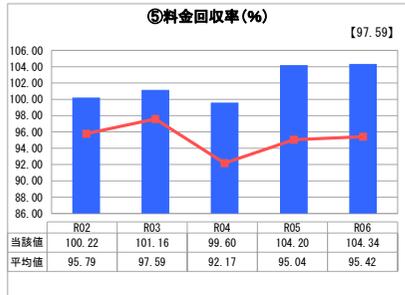
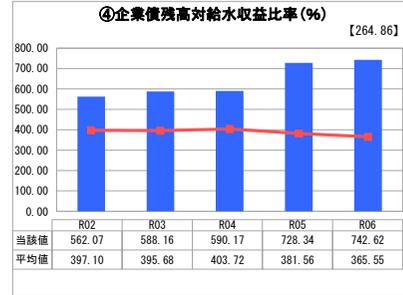
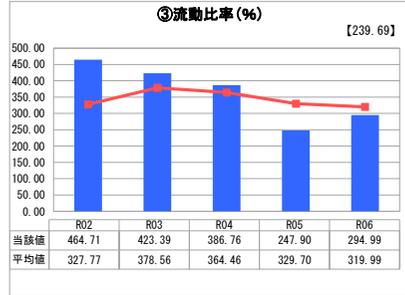
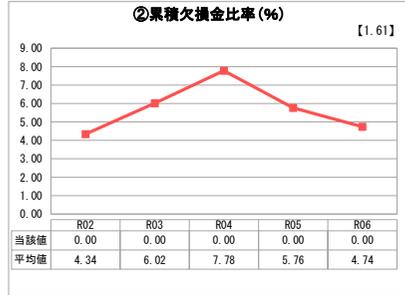
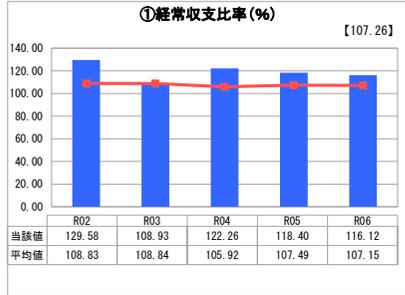
岡山県 井原市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	54.35	93.92	3,388	

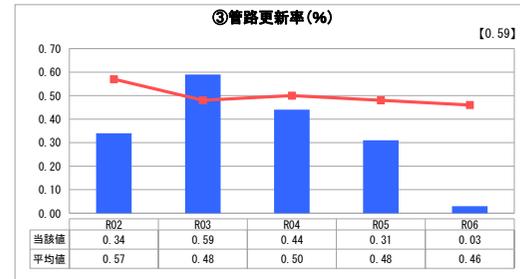
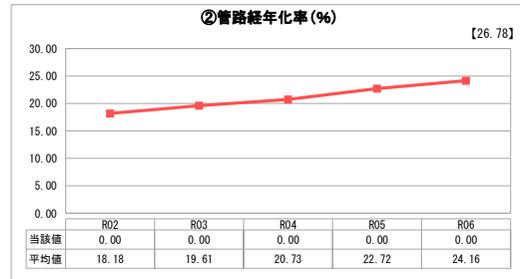
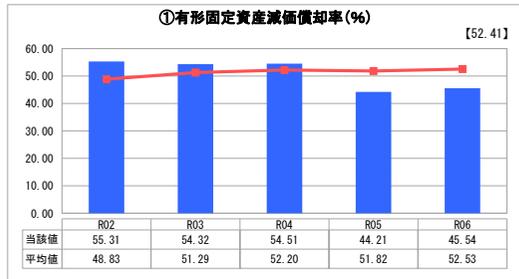
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
36,670	243.54	150.57
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
34,179	138.37	247.01

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
□	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

累積欠損金(グラフ②)を抱えておらず、経常収支比率(グラフ①)も100%を超えており、給水原価(グラフ⑥)も低いことから、概ね良好な経営と判断される。しかしながら、企業債残高対給水収益比率(グラフ④)は、依然として類似団体平均値より高い水準となっている。

現在実施している耐震化事業等の財源は、主に企業債を見込んでいたが、今後も引き続き取り組む計画であるため、投資規模の妥当性ととも企業債残高を考慮した財源についても検討していく。

施設利用率(グラフ⑦)については、類似団体平均値より低い水準となっているものの、約6割程度の利用となっているため、施設更新については、今後の水需要の予測を踏まえ、ダウンサイジング等も視野に入れ、効果的な更新が求められる。

有収率(グラフ⑧)は、漏水調査等の強化により、類似団体平均値を上回る水準となっている。引き続き、漏水調査や老朽管の更新に取り組み、有収率向上に努める。

少子高齢化による人口減少、節水機器の普及や市民の節水意識の高揚により、給水収益が今後減少していくことが予想されるため、引き続き、有収率の向上を図り、収益確保に努めつつ、費用面についても効率化を図り、経営の健全化に努める。

2. 老朽化の状況について

本市の水道事業は、昭和43年から順次拡張工事を行い、現在に至っている。近い将来、第二次拡張事業で整備した配水管等が耐用年数を迎えることから、計画的かつ効率的な更新計画が必要となっている。平成28年度に「水道施設インフラ長寿命化計画」を策定しており、その計画に沿って施設の長寿命化・耐震化に向けた取り組みを行っていることとしている。

更新にあたっては、多額な費用を伴うことから、国・県の動向を注視しながら有利な財源確保に努め、水道事業の経営を圧迫しないよう努める。

全体総括

本市では、上水道の他に簡易水道があり、令和2年度に策定(令和7年度に中間見直しを実施)した経営戦略に基づき、上水道への事業統合を進めている。

事業統合への取組みとして、令和5年度から上水道と簡易水道の経営統合を実施しており、財政基盤の強化を図っているところである。

今後も引き続き事業統合を見据え、中長期的な視点に立ち、安全・強靱・持続可能な水道事業を目指し、災害に強い水道施設を構築し、更なる経営の健全化に努める。